

作成日 2005年3月29日

製品安全データシート

1.製品及び会社情報

製品名 : #INWOOD ALL COLORS (MAPLE,CEDER,NATURAL,PECAN, SIERRA)

製造会社名 : UNITED COATING MANUFACTURING COMPANY

住所 : 19011 E. CATALDO ROAD, GREENACRES, WASHINGTON 99016-9423

担当部門 :

担当者 :

電話番号 : 509-926-7143(INFORMATION PHONE)

FAX 番号 : 509-928-1116(INFORMATION FAX)

製品コード : IW-CL

緊急連絡先 : INITIAL(FIRST CALL)CHEMTREC:800-424-9300
BACK-UP 800-541-4383

販売会社名 : 有限会社 クオファーム

住所 : 山梨県甲府市下小河原町 316-1-411

担当部門 : 塗料販売

担当者 : 鈴木啓太

電話番号 : 055-241-3978

FAX 番号 : 055-241-5978

製品コード :

緊急連絡先 : 055-241-3978

整理番号 : 7485(カタログ番号)

2.組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物

化学名又は一般名

成分及び含有量

化学名	CAS No.	化学式	官庁告示整理番号 化審法・安衛法	含有量 (%)
ストッガード溶剤	8052-41-3	構造不定	対象外	52
アマニ油	8001-26-1	構造不定	対象外	24
アルキッド樹脂溶液	67700-76-9	構造不定	対象外	14
キリ油	8001-20-5	構造不定	対象外	7
パラフィンワックス	64742-43-4	構造不定	(8)-414	2
顔料マスターバッチ(5色)	企業機密	構造不定	—	1

危険有害成分 : ストッダード溶剤
 労働安全衛生法第 57 条の 2 通知対象物 : 名称等を通知すべき有害物(政令番号 549 ミネラルスピリット(ミネラルシンナー、ペトロリウムスピリット、ホワイトスピリット及びミネラルターベンを含む。))

3.危険有害性の要約

最重要危険有害性

有害性 : 眼に蒸気が接触すると、軽度ないし中程度に刺激する。液との接触により重度に刺激する。

皮フとの接触により中程度に刺激する。

経口摂取により、口、喉、食道の粘膜を刺激するとともに、酩酊の症状を起こすことがある。吐き気、嘔吐を起こすことがある。

吸入により呼吸器官を刺激する。

環境影響

: 本製品は、特に好気性微生物によって徐々に分解される。

物理的及び化学的危険性

: 可燃性がある。熱、火花及び火炎で着火することがある。

特定の危険有害性

: 皮フから吸収されることがある。

飲み込むと胃や腸管から容易に吸収される。

主要な徴候

: 眼と接触すると、刺すような痛み、涙、発赤、腫れを生じる。

皮フとの短期の接触により、発赤、かゆみ、火傷を起こす。皮フからの吸収により、中枢神経系の機能低下を起こすことがある。皮フが損傷すると、皮フからの吸収が増大する。長期及び/または繰返しの接触により、皮フの脱脂が起こり、中程度ないし重度の皮フ炎を起こすことがある。慢性症状には皮フの乾燥、膨れ、皮フの薄片の脱落、水膨れ、ひび割れ、及び重度の皮フ組織の損傷が起こることがある。

飲み込むと、口及び食道の焼けつくような痛み、咳、嘔吐、めまい、千鳥足、催眠、頭痛、意識喪失、幻覚、錯乱、言語不明瞭、混迷及び中枢神経系への影響等。

分類の名称

(分類基準は日本方式)

: 引火性液体、急性毒性物質。

4.応急措置

吸入した場合

: 直ちに新鮮な空気の場合に移動させる。
 意識がない、あるいは呼吸していない場合は、直ちに医師の診断を受ける。

呼吸していない場合は、直ちに人工呼吸を始める。

心臓が止まっている場合は、直ちに心肺蘇生術を施す。

呼吸困難な場合は、熟練者によって湿度 100%の酸素を与える。

直ちに医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合

: 汚染された衣類及び靴を脱がせる。

暴露した部位を大量の水で洗淨する。

皮フ表面が損傷されている場合は、清潔な布等で保護し、医師の診断を受ける。軟膏を使ってはならない。

皮フ表面が損傷されていない場合には、暴露した部位を刺激の少ない石鹼と水で洗淨する。

組織が損傷しているように見えるとき、あるいは痛みや刺激が続くようならば、医師の診断を受ける。

目に入った場合

： 痛み及び発赤が広がっていれば、直ちに冷水、清水、低圧水で15分以上洗淨する。

眼とまぶたを完全に洗淨できるよう、まぶたを開けたまま洗淨する。コンタクトレンズをしていれば外す。外れない場合専門家にまかせる直ちに医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合

： 嘔吐は自然に任せ、無理に吐かせてはならない。

嘔吐が起こったら、呼吸で嘔吐物が肺に入らないように、うつぶせに寝かせ、頭の位置が股関節より下にくるようにして吐かせる。

被災者が眠っているか、または意識が無い場合は横向きにして頭を下げて吐かせる。

意識が完全でない場合は、口から何も与えてはならない。

被災者を一人きりにしない。

直ちに医師の診断を受ける。

医師に対する特別な注意事項

： 過剰に吸入すると毒性作用を起こすことがあり、呼吸の窮迫を監視する。咳または呼吸困難があれば、上気道に炎症、気管支炎、肺炎がないかを調べる。

5. 火災時の措置

消火剤

： 小規模火災の場合、ドライケミカル、二酸化炭素、泡消火薬剤、噴霧水、または不活性ガス(窒素)。

大規模火災の場合、泡消火薬剤、噴霧水、散水。

使ってはならない消火剤

： 棒状水。

火災時の特定危険有害性

： 蒸気は空気と混合して爆発性のガスを形成する。

下水溝やタンクなどの閉塞箇所に蒸気がたまると、爆発性混合ガスが形成される。

蒸気は空気より重く、地表を這って遠距離を移動し、着火源があると引火、爆発することがある。

容器が冷却されないと、火災の熱で破裂することがある。

特定の消火方法

： 大規模火災には、泡消火薬剤等を用いて空気を遮断する事が有効である。大規模火災には、周囲の延焼防止に努める。

関係者以外は安全な場所に退去させる。

水は火にさらされた容器を冷やし、人を火から護り、蒸気及び漏洩物を分散するのに用いる。

危険が及ばなければ、容器を安全な場所に移動させること。

安全な場所から消火活動をする。

消火を行う者の保護

： 加圧の自給式呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項** : 火災や爆発の危険があるので、全ての着火源を取り除く。
立ち入り禁止区域を設け、関係者以外を避難させる。
漏洩物を取扱う装置は全てアースを付ける。
漏洩時の作業には自給式呼吸器及び身体全体を覆う保護衣を着用する。
少量漏洩の場合、蒸気の発生を抑えるため泡を噴射する。
大量漏洩の場合には、水噴霧により蒸気の発生を抑え、または蒸気を分散させてもよい。
漏洩物に触れたり、その上を歩いたりしてはならない。
- 環境に対する注意事項** : 漏洩物及び洗浄廃液は、水域、下水道、地下水、飲料水系へ漏出しないようにすること。
環境への漏出があった場合には、地域の保健所などの機関に知らせること。
- 除去方法** : パーミキュライト、乾燥土、砂または入手可能な適当な不活性吸収材を漏洩区域に散布し、できるだけ多くの漏洩物を吸収させ、スチール製の容器にすくい集め廃棄する。吸収した漏洩物を集めるのに、火花を発生するような道具を用いてはならない。
漏洩区域を洗剤と水で洗浄し、洗浄廃液は容器に集め、適切に廃棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策** : 適切な換気がされているときのみ取扱うこと。
- 注意事項** : 容器は空であっても、蒸気を含むので、液で満たされていると見なして、警告に従って取扱う。
容器を加圧、穿孔、切断、溶接、ろう付け、はんだ付け、ドリル、研磨してはならない。
容器を火炎、火花、静電気あるいはその他の発火源にさらしてはならない。
これらの発火源により蒸気が爆発を起こすことがある。
蒸気は吸入すると有害であり、人を死に至らしめることもある。
容器を使用しないときは密閉しておく。

- 安全取扱注意事項** : 化学用安全ゴーグル、ニトリル製ゴム手袋及びエプロンを着用すること。

保管

- 適切な保管条件** : 熱、火花、火炎、酸化剤から離して保管する。
涼しく、乾燥した、よく換気された区域に混触危険物から離して保管すること。
使用していないときには容器は閉じておくこと。

- 安全な容器包装材料** : 情報なし。

8. 曝露防止及び保護措置

- 設備対策** : この製品を取扱い、または使用する際、空気汚染物質を許容濃度以下に保つため、通常は換気装置が必要である。

- 管理濃度** : 設定されていない。

許容濃度

	日本産業衛生学会 (2004年版)	ACGIH(2004年版) TLV-TWA STEL
ストッダード溶剤	—	100ppm

保護具

- 呼吸器用の保護具** : 呼吸器保護具。
- 手の保護具** : ニトリル製ゴム手袋。
- 目の保護具** : 化学用安全ゴーグル。
- 飛沫が発生するとき、またはスプレー作業のときには呼吸器保護具の使用が望ましい。
- コンタクトレンズの使用は被災したとき被害を悪化させるので避けたほうがよい。
- 液体、蒸気、スプレー・ミストが眼に触れないようにする。
- 皮膚及び身体の保護具** : 皮フ接触を避けること。エプロン、身体全体を覆う衣類。

9.物理的及び化学的性質

物理的状态

- 形状** : 中程度の粘稠液体
- 色** : 着色により異なる
- 臭い** : 石油留分臭
- pH** : データなし

物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲

- 沸点** : 138-157.2 °C
- 融点** : -20°C
- 引火点** : 40°C (TCC)
- 発火点** : 254°C
- 爆発特性** :
- 爆発限界** : 下限 1.0 vol% 上限 14 vol%
- 密度** :
- 比重** : 0.8584-0.8625(水 = 1)
- 溶解性** :
- 溶媒に対する溶解性** : 水に難溶

10.安定性及び反応性

- 安定性** : 通常の保管条件では安定である。
- 反応性** : 規定に従って取扱い、保管している限り危険な反応は起こらない。
- 避けるべき条件** : あらゆる発火源から離しておく。過熱を避ける。
- 避けるべき材料** : 液化塩素、高濃度酸素ガス、次亜塩素酸ソーダ及び次亜塩素酸カルシウムのような強酸化剤。
- 危険有害な分解生成物** : 熱分解により、二酸化炭素、一酸化炭素が生成する。
燃焼中に不特定の有機物ヒューム及び煙が生成することがある。

11.有害性情報

急性毒性	:	ミネラルスピリット		
経口毒性	ラット	LD50	> 34600mg/kg	(1)
経皮毒性	ウサギ	LD50	15400mg/kg	(1)
吸入毒性	ラット	LC50	> 21400mg/m ³ /4H	(1)

局所効果	:	ミネラルスピリット		
眼刺激性	ラビット	500mg/24H	中程度の刺激性	(2)

亜急性毒性

蒸気を吸入すると眼、鼻、喉を刺激し、めまいを起こす。

皮フに触れると皮フ炎を起こす。

液体の吸入により化学肺炎を起こす。

動物において腎臓を損傷する。

慢性毒性/発がん性

オスのラットが長期あるいは繰り返し蒸気を吸入すると、腎臓の失調及び/または損傷を起こす。

数多くの動物実験では、低沸点炭化水素の蒸気による疾病について臨床的な証拠は得られていない。

12.環境影響情報

移動性	:	データなし。
残留性/分解性	:	本物質は、特に好気性微生物によって徐々に分解される。
生体蓄積性	:	データなし。
生態毒性	:	データなし。

13.廃棄上の注意

引火点が70 未満の場合、焼却炉で少しずつ燃焼するか、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。焼却に際しては引火性物質を含むので注意して行う。空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

14.輸送上の注意

国際規制	:	IMO(国際海事機構)の規定に従う。 ICAO(国際民間航空機構)、IATA(国際航空運送協会)の規定に従う。
国連分類	:	クラス 3(引火性液体)、容器等級
国連番号	:	1993(その他の引火性液体)
国内規制	:	陸上：消防法の規定に従う。 海上：船舶安全法の規定に従う。 航空：航空法の規定に従う。
輸送の特定の安全対策及び条件	:	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

15.適用法令

消防法	:	第4 類引火性液体、第2 石油類非水溶性液体(1,000L)
労働安全衛生法	:	法第57 条の2、施行令第18 条の2 別表第9 名称等を通知すべき有害物 (549 ミネラルスピリット(ミネラルシンナー、ペトロリウムスピリット、

ホワイトスピリット及びミネラルターベンを含む。))、1重量%を超える製剤その他のもの。施行令別表第6の2、有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第5号(第3種有機溶剤等)(54 ミネラルスピリット(ミネラルシンナー、ペトロリウムスピリット、ホワイトスピリット及びミネラルターベンを含む。))、5重量%を超えて含有するもの。

船舶安全法

: 引火性液体類、容器等級3

航空法

: 引火性液体、等級3

16.その他の情報**引用文献**

(1) UNITED COATING MANUFACTURING COMPANY の MSDS

(2) RTECS(2005)

このデータシートは、化学製品の工業的な一般的取扱いに際しての安全な取扱いについて、最新の各種文献に基づいて作成していますが、完璧なものではありません。

また、記載内容は、情報提供でありいかなる保証をなすものではありません。

新たな情報を入手した場合は、追加または訂正されることがあります。化学製品に他の化学物質を混合したり、特殊な条件で使用する時は、需要者各位が安全性の評価を実施し、自らの責任において個々の取扱い等の実態に応じた適切な措置をとられるようお願い致します。